令和2年度学校自己評価表

18歳で自立できる人間を育てる

鳥取県立米子養護学校

				ᅝ		評価	結果 ((3月)
主体	高等部	計画の条体項目 〇目標に向かってどうすればよいか 考え、私り強く最後まで取り組む生 佐の育成 〇基本的生活習慣・集団規律、学習 規律が習慣化された生徒の育成	もうとする様子が見られるようになってきている。また、先輩の休年を見てチャレジすることをの大切さを学んできている。 くことの大切さを学んできている。 の教師の指示を学んさと動くことができるが、自ら考 その後どうなのかを考えずに動しているはから い。 込まかきに表音慣や学習規律については、今までの取 り組みなできるようになってきている部分も多いが、 後女に接着ではしていない。それを単や、一つン節、伝 様実を定義で、の取りなってきている部分も多いが、 の様実をに対していない。 を表し、集団規律や他者 を表した。 のは、ないないできないでは、 は、ないないできないでは、 は、ないないできないでは、 は、ないないでは、 は、ないないできないないでは、 を表した。 は、ないないないできないできないないが、 は、またないないできないできないない。 は、またないないできないない。 は、またないないでは、 ないないないできないない。 は、またないないできないないないが、 は、またないないできないない。 は、またないないできないない。 は、またないないでもないないないがでしない。 は、またないないできないないでは、 は、またないないできないない。 は、またないないできないない。 は、またないないできないないないないないないないないないないないないないないないないない	よりよくするためにはどうしたらよいかを考えたり、周囲の八に伝えたりすることができる。 ○卒業後の生活に向け、基本的生活習慣・集団 規律・学習規律が習慣化され、様々な場面でできる。	めにどうしたらよいか生徒が考え、伝える時間を設定する。 の行事や表現 音楽等、集団で「合わせる」ことを意識する学習を 有効に使いながも集団規律の確立を目指したり、生徒の達成感へつ なげたりする。 〇「東米高等部全員で取り組むこと」高等部学習規律9項目」を各数 窓に掲示し、予略を体で同じ指導内容で取り組むるようにする。 〇「身だしなみチェック」や「今月の身だしなみ頑張リポイント」を 委員会活動の中に位置づけ、生徒が生体的に自分たちで気を付けて いこうという意欲を持てるようにする。	○「考える」 任表える」学習展開を仕組んでいてこと で、生体が2つで考えて行動でも場面が増えてきた。 しかし、どこまで有らうのか、教員間での共通理解を 分分ではないことがあった。 〇例年行っている行事や合場等か今年度は新型コロナー マルス対象であるというであったが、 でした。学習を知るしたできるだけ日標にせままれるようれ の成長がみられるようになってきている。 ○基本的生活機については、安美の大きには、清潔を登録があるが増えており、元度単が見まる。 分社を力で整接して身代となみを整えたり、清潔を登録がある。 は、技術や姿勢などの学習規律、集団規律については、 技術や姿勢などの学習規律、集団規律については、 は、すべての場面で意識することは難しかった。	評価 B	改善方法 ○生徒の目指すべき姿を教員間で共有し、具体的に対 メージして指導に随むようにする。そのために情報共 有を可定はでは、学師全体で生活のきまり、高 等部のきまりなの目標を意識し、「考える」「主体的に ○生徒が自身の目標を意識し、「考える」「主体のに できなが自身の目標を意識し、「考える」「主体のに できない。「考える」「主体のに ・ そのためには、「考える」「主体のに ・ とそのためには、「考える」「主体のに ・ といる。 「考える」「主体のに ・ といる。 ・ 「考える」「主体のに ・ といる。 ・ 「考える」「主体のに ・ といる。 ・ 「考える」「主体のに ・ これのに ・ 「考える」「主体のに ・ これのに ・ 「考える」「主体のに ・ といる。 ・ 「表している。 ・ 「まんている。 ・ 「まんている。) ・ 「まんている。 ・ 「まんている。 ・ 「まんている。 ・ 「まんている。) ・ 「まんている。」 ・
的な学びを促す取り組み	中学部	取り組み、最後までやりきろうとする生徒の育成 〇基本的に活習慣、学習規律など基本的なルールやマナーを守ろうとする生徒の育成	〇あいさつ、身だしなみなど意識して取り組んでいる	○生徒自身が、課題や目標に向けてすが心取り組み、最後までやり遂げようとしている。 ○自分なりの考えや意見を伝えて学習□取り組 んだり、学かだことを様々な方法で表現して伝 えたりすることができる。 ○すすんであいるつをしたり、時間を守ったり等、集団生活や学習の規律を守って、行動しようとしている。	びの姿」を具体的にし、職員でイメージを共有する。教師主導では なく、生徒自分が考え、選択して行動でを投業構成や指導・支援 の方法を工夫し、授業改善に取り組む。 〇学年会(随時)、授業作り研修(月1回)、個を語る会(学期1 回)等で日頃から情報交換を密にし、生徒理解に努め生徒につけた い力(目指す姿)を明確にし、共通理解や役割分担しながら指導に の生徒が活躍できる場面を創意工夫し、生徒自身が自分の変容を確 認でき、達成感や成就感が感じられるようなわかりやすい授業や手 立てを工夫する。	・学年会、最を語る会等を生かし、個々の生徒に目前 す「主体的で学び」の姿が現状的に考えられ、生徒自 身で「考え」「判断」「選択・決定」する活動や場面が多 く設定された。生徒自身で書記動を考え、役割を目 うことと、「伝え合う」ことやすすんで活動する姿がが増 えた。 ・生徒自身が「目標」を意識しそれについて「振り返 の」ことを繰り返した。即時評価や、自身の実容が祝 現的に確認ときとすることが増えているが、難し い課題や苦手やまに意意がが待てないこともまだある。 学習規律や時間を守ることは意識できつつある。あ	В	〇本年度「主体的な学び」に向けて取り組んだ成果と 課題を確認し「授業年りのポイント」としてまとめ、 学部会や学部授業作り研修を通して次年度に引き継く、 、 、 〇生徒が活躍できる場をきらにエ夫・改善したり、新 たに設定したり、達成際の政務につなげる。 〇「すすんであいさつ」など定着につなげたい生活習 慣や学習規律を、選出して取り組む期間を設定する。 〇学年会や個を組る会だけでなく、職員間での情報交 挽を密にし、共通理解して指導にあたる。
	小学部	的に学習に取り組むための指導・支援の工夫 〇相手を意識して表現しようとする 児童の育成	れない活動には受け身であったりなかなか取り組もうとしなかったりする児童もいる。 の苦手なことにもすすんでチャレンジする姿が見られるが、途中であきらめてしまうこともあり、遠成感や 成就感を十分に味わえていないことがある。 〇自分なりの方法で思いや要求を表現しようとする姿	や考えを進んで発表したり苦手なことにもチャレンジしたりて、最後まで頑張り抜こうとする 姿が増える。 〇伝えたい相手や内容を意識してコミュニケー ションをとろうとする姿が増える。	○学年会や個を語る会を適宜設定し、個々の児童につけたい力やねらいを明確にして、職員間で共通理解して指導にあたる。 ○学習のおらいが児童と共有され、学習を必がより高まるような授 「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、日本のでは、「日本のでは、」」「日本のでは、「日本のでは	いさつについてはされたら返す、されても返さないに の教師を児童がわらいを共有と警に対する異適しを 持つことができるよう努め「宇宙の流れが分かる」 「次に取り組むことが分かる」、 1 項項を必要がある。 を表して、 変欲のはいかでは、 1 項項を必要がある。 として、 要欲の関心、 0 寸をがった。 1 項面を設定した。 、児童の興味や関心、 0 寸をがった。 1 項面を設定した。 1 である。 1 であ	В	○今年度効果的であった指導や支援、課題をまとめ、 次年度に引き継ぐ。 ○学習の中でできるようになったことを、他の学習や 生活の場面でも生かすことができるように教員間で共 通理解して、指導にあたる。 ○今年度同様いろいろな「発表」の場を設定する。児 電がより意欲的に満動できるように場の設定や表現方 法を工夫したり、伝える相手の幅を広げたりする。
学部間の連続	教務課	た」学習のねらいや活動を設けた年 間指導計画の作成	○昨年度の指導の重点より「カフェや神楽の目的を整 譲した」学習のわらいや活動を設けた年間指導計画を 昨年度作成した。それが実際にわらいに則した活動に なっているのか、また、学師の関連性、系統性等が あるかどうかについて検証しなければならない。	らいや活動を設けた年間指導計画に則した授業 実践の反省をもとに、さらにねらいに則し、学 部間の関連性、系統性のある次年度の年間指導 計画が完成している。	〇「カフェや神楽の目的を意識した」学習のねらいや活動を設けた 年間指導計画であるといった昨年度の経絡を全職員で共通理解する の1年間の授業実践をもとは、「カフェや神楽の目的を意識した」学 習のねらいや活動になっていたのか、学部間の連続性、系統性等に ついてはどうであったのかを教料領域の全で検証し、次年度の年間 指導計画を作成する。	度は多く見られ、この共通目的がさらに意識されるよ うになったことで、次年度の年間指導計画の学部間の	В	○年間指導計画の学部間の関連性や系統性をより一層見 重すことができるように、高等部のカフェや神楽の目的 を研修する機会を設けていて、「カフェや神楽の目的を 意識した」学習実践に取り組み、それを他学部でも知っ たり見たりする機会を設ける必要がある。また、授業づ くり提進課との協同体制を検討する。
表現力向上	表現力向上	論的に学び、学校全体で共通理解する。 のけんべい祭やその他での発表が児 東・生徒の対体験となるように学 校行事部との連携推進。	の目的を意識した」とあるが、何を意識して取り組む のかを全学部が同じ方向で意識しているとは言えな い。人と「合わせる」ことの意味や目的など学校全体 で共通理解する必要がある。 ○表現方法に制限がある学習においてけんべい祭をは むめとする実現活動発表の掲載をどのように工夫して 取り組むのかを各学部で検討していく必要がある。	や表現活動の学習を見合う会(記録として動画 で残す)や全体研修を設定する。 ○表現方法に制限がある学習において「合わせ		小学部は全体発表ではなかったため、学部内での音楽 発表)の反省や来年度への助り組み方についてアン ケートを行い、その場果について情報交換を行い、学 断間での条年度のけんべい祭での取り組みについての 方向性を確認することができた。 〇けんべい祭以降も各学部で「着楽発表会」や「見合 う会」などコロナ渦での発表の方法など各学部で工夫 しながら行うことができた。	В	○「なぜ、神楽に取り組んでいるのか、どのような力が 身につくのか」についての全体研修を今年度同様全体研 修を1学期内に行い学校全体で共通理解を図る。 ○表現方法に制限がある学習が続くであることを「合わ せる」というテーマを大切に、今年度の含細を生か してどのように取り組んだらよいかを情報交換し、学校 行事部とも遺传と図る。 ○表術鑑賞会など、鑑賞をする機会を全体ではなく学部 単位にするなど工夫して開催をする。(コロナの感染状 況などを考慮しながら)
体力向上	体力づくり推進	整備に努める。	○学校の指導の運転にからだづくり、体力づくりの推 進が明記され、各学部で体力づくりを意味した取り組 みが盛んになっている。反面、活動場所や時間の割り 振りは従来通りで、改善をしていく必要がある。	○体力のくりかできる環境を出失していく。 ○学節を越えた連携を図る。	○実際に、体力づくり・体育の投業で使用している場所・時間を把握 し、周知を図る。 ○学校施設をより有効に使って行くための見直しを図る。 ○今学部で行っている体力づくりを動画で記録し、共通理解が図れるようにしていく。	〇時ドンゲードの知条、自立の面や体力でくりにはで の特別教室が多であるという意見は予想したほどで はなかったが、体力づくりを行う専門的な場所では はなかったが、合うでは、 な強い要望はあるため、引きを検討していきたい。 〇体力テストを情報を対して、また 大、体力づくりの取り組みを各者サイトに載せ、状況 を見ることができるようにした。	С	○特別教室を作るまでの環境は至らなかったが、小学 ・中学部では様存の施設の中で休力をつけていくよう な活動が見られた。安心安全に体力づくりできるよう中 体育館のステージンが活動できる場となる・提案して いきたい。 ○体力テストを情報共有システムに上げたことで、体力 テストの結果が学部向うらには学年内でとどまってしま い、データが活用されていように計っていきたい。 ○動画を見ることはできるようになったが観別的だった ので、体力づくり推進計画と照らしながら登埋していき たい。
(○教職員が教育活動を行う上で必要な研 終の充実	〇毎年、職員の入れ替わりが大きく転入者の校種も 様々なため、学校教育活動全般における確認事項や特	〇全体研修や学部研修で、教職員が教育活動を たるとでなるのな理解を計画し、実体している	○教職員が教育活動を行う上で必要な研修の視点から研修計画を立 て、各担当者と相談しながら調整を行う。	〇年間を通して、計画していた「全体研修」「転入者		〇研修のアンケート結果をもとに、来年度、教職員に必要な 研修を検討し、大まかな研修内容や実施時期の計画を立て
経営の基本(指導力・人権尊重・教育環境・教育組織・情報発信)	研修部		別支援教育についての研修を行う必要がある。 ○新学習指導要領になり、各教科等を合わせた指導に ついてどこがどのように変わったのか理解が不十分で	○「教科等を合わせた指導」について、全体重 の授業づくり呼修の重点を受けて各学部 項目について研修を積み、自己やグループの授 業づくりに活かしたり、各学部の研修について 共通理解したりしている。	○全体研修や学部研修において充実した研修となるように、研修の めあてを示すようにしたり内容の精選や工夫をしたりするうに働 きかける。 ○「教科等を合わせた指導」について、全体での授業づくり研修の 重点を立案し、テーマに沿った取り組みができるよう、講師による 譲渡や授業所へ犯揮励官。各学師の取り組みが得る失遇理事な・場を 設定する等して、研修の積み上げや小中高のつながりを意識した取 り組みを行う。	とができた。研修内容を各分章で検討・精選していた だいたことで、充実した研修となった。全体研修や名 ○「教科等を合わせた指導」について、全体研修や各 学部の授索づり研修を通して、新学習指導要領を踏 達えた各教科等を合わせた指導の概要や各教科等の目 機設定、主体的な学びを促す指導・支援等について講	В	新から保険的に、大きかな場所が日本が美元の中の24日間と立て ○東年度もコート語の中での所修が予想と入るため、状況に 日本である。感染対策を踏まえた研修の在り方(講師の要 請の学校を体の投票を対出基準があることが、 「は、学校を体の投票を入ることができた。今年度行った職員員アケート等を参考にしながら、次年度も重点を立案し、 でしていきを参考にしながら、次年度も重点を立案し、研修を 行っていきない。 日本では、一般では、一般では、一般では、一般である学 他のテーマに対った的確な指導助言をいただくことができた。 大年度も国情に学節毎に講師を依頼して研修を深めてい またい。
	人権教育部	の向上	る意識は高まってきているが、児童生徒の人権意識に ついて十分とはいえない様子が見られる。 〇自己チェックリストで把握した人権に関する課題の 解決に向け、具体的なアプローチの仕方を考える必要 がある。	まりが見られる行動が、年度当初より増えている。 る。 ○教職員が人権尊重に配慮したコミュニケー ションをとったり、信頼関係を築いたること とで、児産生徒が困っていることを教職員に伝	○人権尊重を意識したコミュニケーションのあり方について、外部 講師を招聘して研修の機会を設ける。 ○月初めの終礼で、児童生徒と一様に使える簡単な手話講座や、人 相感覚を宿ぐ板師の自己チェックリストの内容項目を県米サイトに 相感覚を宿く板師の自己チェックリストの内容項目を県米サイトに 切扱戦員の自己チェックリストで把握した人権に関する課題への具 体的なアプローチの仕方について意見を集約し、共通理解を図る。	○単一学級生能を対象に人権アンケートを年3回家施した。中学部では「相手にわかしやすく伝えようとする」意識が、高等部では「自分の役割に責任をもってまり組む、裏部が高まったことが明らかになった。下また、周りの人と生じたトラブルを何らかの方法で精決した。となりままでは、一般ないできたことが推撃された。〇枚職員を対象とした可修会では、ダループワークを話し合い、確認することができた。 の教職員を対象とした自己チェックリストを年回の実施した。その結果、同らかになった課題や問題について、生徒指導接要等に基づいて方策をまとめ、紹介して、生徒指導接要等に基づいて方策をまとめ、紹介して、生徒指導接要等に基づいて方策をまとめ、紹介し	В	○今後も児童生徒および軟職員の人権意識の向上に生かせる 研修を実施していく。 ○人権感覚を踏くための欺職員対象の自己チェックリスト、 生徒対象の人様アンケートを引き続き実施し、実能把握を行 う。集計結果から明らかになった課題や問題について、生徒 指導提要等に基づいて改善へ向けた方策を紹介し、問題の改善 善や解決に努める。
	生徒指導部		携した対応に至っていないケースもある。			できるよう体制を整えることができつつある。今後の 指導に生かす部分は、組織的、継続的な対応に努めた が、十分な対応策が思いだせないケースもあり、話し 合いの進め方に改善が必要。 〇「生活のきまり」「夏休み・冬休みのくらし」等に ついて、学部間の系統性を意識したものに改善でき た。	В	○年度当初に生徒指導委員会や不登校対策委員会のねらいを 丁寧に伝える機会を持ち、職員全体で共通理解をもって実施 できるようにする。 ○各委員会の情報共有はしっかりと行い、議論する内容をで きるだけ絞って行う。 ○今後も系統性を意識した各種規定等の見直しを進めてい く。
	安全指導部		わっている。常に危機管理を競失意識したり、研修したことを活用したりするための働きかけを年間を通して行う必要がある。	への対応について共通理解し、学校全体で危機 管理の意識が高まっている。		個、指導を通して、危機感を持って予防に努めようとする意識が素まり、維持することができた。 ○避難訓練や緊急時対応の研修の反信を生かし、教職 員一人一人が機管理意識を高、持ち、緊急を要する 場面で適切に対応できるように、対応マニュアル等の 見直しや修正を行った。	В	○年度初めに緊急時の対応マニュアルの開知徹底をする機会 を持ち、教職員―人一人が保機管理意識を高く持って指導・ 支援にあたれるように働きかける。 ○感染症や熱中症に対する注意喚起や対策・対応などの情 報発信を引き続き徹底し、常に危機管理意識を持ち続けるよう う啓発していく。
	教務部	観点別評価	○新子宮指導要領により目標設定や評価の考え方が要 わり、昨年度、指導要録、個別の指導計画の様式を改 めた。しかし、目標設定や観点別評価の考え方、新様 式の記入の仕方等はまだ十分に理解されていない。		○指導要録や個別の指導計画の新株式の配入の仕方について全体研修及び随時ミニ研修を実施していく。 ○ 免生方の困り感等を積極的に把握し、迅速に対応していく。	○教務課内で目標設定や戦点別評価の考え方や記人の 仕方について共通理解した上で各学部で説明、研修を 実施したので、全校でその基本的な考え方をもとに目 標設定、観点別評価に取り組むことができた。	В	○目種設定や観点財産価文票において、どこで記入者のつまずきがあるのかを把握し、その改善に向けた研修を次年度 は設定していく必要がある。
	進路指導部	ついての教職員の理解促進 〇保護者のニーズの把握と進路情報 の提供	ために、教職員が進路に対する考え方、事業所(企 業、福祉サービス)について説明ができるようにする 必要がある。 〇保護者が、児童・生徒の卒後の生活について、少し でもイメーンを持つことができるような進路情報の提 供が必要である。	いる。	○本校の進路指導の基本的な考え方や流れについて、全体研修およ 立ち三研修を行っていく。その際、研修の内容、持ち方についてエ まする している。 一学部担当者と担任で、懇談時の進路の赤髪や生活の様子など情報 交換を行い、保護者の考えやニーズを把握していく。 ○進路研修会、や文書等で保護者へ進路決定の流れや福祉サービス 等の情報をわかりやすく発信をしていく。	ターフォローについて研修をした。現場実置の専期や 李業を開近定長た時期になる保護者の進路に関する関心も高まり、担任の相談と増えてくるが、進路 担当者と相談しながら保護者、説明することができ た。 〇保護者研修、しんろだより、個人懇談等で進路の情報提供を行うことができた。	В	○今後も職員・保護者のニーズを把握しながら高等部卒業後の進路の基本となる情報と新しい情報の提供をしていく必要がある。中・高とそれぞれの段階で保護者が必要とする連絡の情報は変わってくるので、それを考慮した研修の内容を考えて行く必要がある。
	学校行事部	力推進計画」に基づく行事のねらい や取り組みへの反映	の昨年度からの引継ぎを受け、それをもとに「けんペ ルスポーツチャレンジ」を企画、実施計画を提案。 かし、新型コロナウイルス感染症のため、実施計画を 改訂、再改訂。実施に向け検討してきた。また、「 けんべい祭」の企画、立案、実施に向け、準備を進めて いる。新、回の提案は、6月ピチ定している。今後の 社会情勢を進して計画を立てていくことが必要であ ると考える。	〇わらいや取り組みの視点を明確にすることで、児童生徒が学習の積み重ねを生き生きと発表することができる。	○体力づくり推進、表現力向上と連携したがらねらいや取り組みの 視点を明確にして行事か企画、運営をしていく。 ○各学部、各分率との連携を密にし、全体をまとめていく。	○引継ぎをもとにけんべいスポーツチャレンジの実施 計画を提案、報型コロナウイルス感験症対策のため、 密訂を重ねながら実施に向け検熱してきた。しかし、 画味体を受け全体での実施は困難と判断。学習の 環とができた。といて、 の新型コロナウイルスを操能拡大防止を急頭に置き、 けんのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	Α	○スポーツチャレンジの取り組み、けんぐい祭の反省アンケー等を参考にして、収全と課題を明らたにしていく。 ○成果と課題を踏まえて、体力づくり推進、表現力向上と連携しながら来年度のスポーツチャレンジ、けんべい祭のねらいや取り組みの方向性を見出していく。
	授部支	悟	○就学の基準や知的障がい特別支援学校の教育課程についての相談が増えている。 1006~81%) B:概ね連成(80%~81%程度) C:	や取り組みについての情報がわかりやすく提供されている。	○就学事務の手引きや学習指導要領をもとに、具体的な説明に努める。 ○授業公開や学習環境・教材教具の紹介等による情報発信を行う。 ○ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	〇コロナ感染症拡大の状況により、学校公開や設明会等の中止や予定変更が必要となりその都度調整を行った。就学検討を採用める手順については、運営の工夫や個別の対応率で情報提供ができた。 ○説明会や研修会では、説明や資料の根拠を明確にした情報を提供できるよう改善を行った。	В	○学校公開や各種説明会等については、感染症対策の徹底や リモートの導入の検討等、柔軟に対応できる体制を整えてお く必要がある。 ○直接の見学や参観に代わる手段として、学習場面や指導支 援の工夫、教材教具等について、視覚的に提示できるデータ の収集を学校体制で進めていく必要がある。